

2026年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52210	子ども家庭支援の心理学 Psychology of child and family support	井手 裕子			2	選択	2年後期

科目の概要

「保育の心理学」で学んだ生涯発達の復習を行うと共に、発達課題や起こりやすい問題等について理解する。また、家族・家庭の意義や機能について理解を深めるとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を修得する。その中で子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についても理解する。これらは、ディプロマ・ポリシーの③と⑥に相当する。専門的知識と技能を身に付け、自己潜在能力を開発しながら職場と地域の課題解決に貢献できる力を獲得することを目指す。

学修内容	到達目標
① 生涯発達（胎児期から老年期）に関する心理学的な知識を学び、発達課題や起こりやすい問題について理解する。 ② 家族・家庭の意義や機能を理解する。 ③ 親子関係や家族関係等について理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を学ぶ。 ④ 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。	① 各発達段階の特徴を学び、発達課題や起こりやすい問題を理解することができる。③ ② 家族・家庭の意義や機能を学び、理解できる。③ ③ 親子関係や家族関係等について理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を捉えるようになる。⑥ ④ 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解できる。⑥

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの課題意識をもって講義内容を聞き、要点を筆記すること、 グループ討議では、積極的に意見を述べ、協力して発表内容をまとめる。
	働きかけ力	
	実行力	<ul style="list-style-type: none"> 学修内容が理解できるように積極的に取り組むことができ、事例検討、グループ討議等で意見を出し合い、整理して、聞く人に伝わるように発表できる。 提出物、指示された課題について、期限を守ることができる。
考え抜く力	課題発見力	<ul style="list-style-type: none"> 実習経験や今までの学修を基に課題を探し出すことができる。 資料やNotebookLMから、課題解決の方法を工夫して検討することができる。
	計画力	
	創造力	<ul style="list-style-type: none"> グループ討議や発表で、他の学生の意見を聞き、自分自身の経験と合わせて、意見をまとめることができる。
チームで働く力	発信力	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容で疑問に思ったこと、分からないことを積極的に質問できる。
	傾聴力	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容、他の学生の意見に耳を傾け、自分自身のこととして考えることができる。 発表者の意図をくみ取ろうとする。 課題の内容、提出期限を把握できる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、無断欠席など、学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

『子どもまんなか社会に活かす「子ども家庭支援の心理学」』 立花直樹 安田誠人 晃洋書房 (価格 2,000円+税)

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：「保育の心理学」、「幼児理解」、「子どもの家庭支援論」
 資格との関連：「保育士」

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> 授業内容を実習体験や、日常生活での出来事と重ね合わせて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育士は人を対象にした仕事であるため、知識と豊かな情緒を育むことができるように、学ぶ意欲をもって臨むこと。 携帯電話は、授業中は使用しないこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	60	①	✓	授業で学修した内容の理解度を確認する。 ①各発達段階の特徴と、発達課題や起こりやすい問題を理解し、説明できる。 ②家族・家庭の意義や機能を理解し、説明できる。 ③親子関係や家族関係と問題解決が理解し、説明できる。 ④子育て環境をめぐる社会状況と課題を理解し、説明できる。	
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
	平常評価	小テスト		30	①	✓	授業で学修した内容の理解度を確認し、自身の考えを述べることができているかを評価する。 ・各発達段階の特徴と起こりやすい問題について理解し、述べることができるか。 ・家族・家庭の意義や機能について理解し、述べるができるか。 ・親子関係・家族関係について理解し、子どもとその家族を包括的に捉えることの大切さを述べるができるか。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について把握し、子育て支援の在り方について自身の考えを述べるができるか。
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
		レポート		0	①	✓	
					②		
③					✓		
④							
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		0	①				
			②				
			③				
			④				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）		10	①		(主体性) ・興味関心、学修意欲の高さ、積極的な発言を評価する。遅刻等がある場合に評価する。 (実行力) ・グループ討議で、積極的に発言し、意見をまとめるように働きかけること、提出物の提出状況を評価する。 (課題発見力) ・実習体験やこれまでの学修から各発達段階における心の問題を考えようとするができる。 (創造力) ・グループ発表で他の学生の意見を聞き、自身の体験と合わせて、保育現場での子どもに対するよりよい支援を考えることができる。 (発信力) ・講義内容に対して、疑問に思ったことを質問できる。グループ発表時に、聞き手にわかりやすいように発表することができる。 ・受講態度（学習意欲欠如、課題未提出、グループ活動への非協力度等）により減点する。 (傾聴力) ・講義内容、他の学生の意見に耳を傾け、興味をもって聞く姿勢がとれる。 (規律性) ・遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。全出席（フォローレポート提出）は4点、1回欠席は3点等、減点していく。	
				②			
				③			
				④			
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
・保育の専門家として、各発達段階の心身の発達の特徴や問題を理解し、述べるができる。(①) ・家族や家庭の意義や機能を理解し、価値観や機能が多様化していることを含めて説明することができる。(②) ・親子関係・家族関係について理解し、子どもとその家族における包括的な支援方法を述べることができる。(③) ・親子の育ちに目を向けた、子育て支援について考えを述べることができる。(④) S(秀) = ①+②+③+④、 A(優) = ①又は②又は③又は④の内の3つ	・乳幼児期の母子を中心に心身の発達課題や問題行動を理解し、述べることができる。(①) ・家族や家庭の多様性を学び、特徴を述べることができる。(②) ・親子関係・家族関係について理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点の大切さについて述べることができる。(③) ・子育て家庭の現状と課題について述べることができる。(④) B(良) = ①+②+③+④、 C(可) = ①又は②又は③又は④の内の2つ

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 子ども家庭支援の心理学を学ぶことがなぜ保育上必要なのかを知る。	講義 演習 グループ討議 到達目標(抱負)をレポートし、提出する。	子ども家庭支援の心理学を学ぶことがなぜ必要なかを説明することができる。	(復習) テキストに目を通し、全体の流れを把握する。	180	主体性
2	胎児の心身の発達を学び、命の尊さを知る。さらに母子の心身の状態を理解し、起こりやすい問題や課題について知識を得る。	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 講義	中枢神経系の発達を阻害する要因について、説明することができる。	(予習) 乳幼児期の発達を再認識するため、配布された資料をNotebookLMに取り込み、事前学修を行い予習質疑に備える。 (復習) プリントを読み、胎児の発達を理解する。	180	主体性 規律性
3	乳児期の心身の発達にともなう問題や課題について学び、その予防や対応を考える。母子関係、家族関係の視点から学ぶ。	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 講義	乳児期の心身の発達の特徴を発達段階に応じて説明できる。	(予習) 乳幼児の心身の発達を再確認するため、配布された資料をNotebookLMに取り込み、事前学修を行い予習質疑に備える。 (復習) 乳児に関する今までの学習や、実習体験を振り返り、ノートにまとめる。	180	課題発見力 規律性
4	幼児期の心身の発達にともなう問題や課題について学び、その予防や対応を考える。母子関係、家族関係、友だち関係など関係性の視点から学ぶ。	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 講義	幼児期の心身の発達の特徴を発達段階に応じて説明できる。	(予習) 幼児期の心身の発達を再確認するため、配布された資料をNotebookLMに取り込み、事前学修を行い予習質疑に備える。 (復習) 幼児に関する今までの学習や、実習体験を振り返り、ノートにまとめる。	180	課題発見力 規律性
5	児童期における心身の発達と起こりやすい問題や課題について学び、その予防や対応について家庭生活と学校生活の両面から考える。	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 講義	児童期の心身の発達の問題について記述できる。	(予習) 幼児期の心身の発達の問題を再確認するため、配布された資料をNotebookLMに取り込み、事前学修を行い予習質疑に備える。 (復習) 特別支援教育について調べてノートに記入する。	180	主体性
6	思春期から青年期における心身の発達とそれにもなう身体症状や精神症状を取り上げ、身近な問題として具体的にその予防や対応について考える。	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 講義	思春期から青年期における心身の発達の特徴を説明できる。	(予習) 思春期の問題(精神疾患)について事前学修を行う。 (chatGPT使用による調べ学修) 配布された資料をNotebookLMに取り込み、事前学修を行い予習質疑に備える。 (復習) 思春期に起こりやすい精神疾患について詳しく調べてまとめる。	180	主体性
7	青年期以降における心身の問題を具体的に取上げその予防と対応について考える。	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 講義 心理検査の実施結果分析	自身の性格特徴を捉え、ストレスを軽減する方法を考えられる。	(予習) 自身の身の回りや実習体験から家族の機能について考え記述する。配布された資料をNotebookLMに取り込み、事前学修を行い予習質疑に備える。 (復習) 心理検査から自分の性格特徴を理解して、日常生活で意識して過ごすようにする。	180	ストレスコントロール力
8	家族の形態や機能を知ると共に、家庭の意義と機能を理解する。	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 講義	家族に対する価値観や機能が多様化していることを説明できる。	(予習) 教科書をよく読み、分からない所は調べておく。配布された資料をNotebookLMに取り込み、事前学修を行い予習質疑に備える。 (復習) 講義で学んだことを予習内容に追加して記述する。	180	主体性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	家族の発達段階と発達課題について学び、親子関係・家族関係の理解を深める。 ・家族病理についての事例検討	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 講義	家族の発達段階と発達課題があることを説明できる。	(予習) 子育て経験が親に与える影響について調べる。配布された資料を NotebookLMに取り込み、事前学修を行い予習質疑に備える。 (復習) 事例を振り返る。	180	主体性
10	子育てを取り巻く社会的状況と子どもの生活・生活環境とその影響について理解する。	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 講義	子どもを取り巻く社会的状況について説明できる。	(予習) 自分自身のライフコースについて考えてくる。 (復習) 子育てを取り巻く社会的状況を学び、子育て支援に必要なこと、活用できる資源についてまとめる。	180	主体性
11	保育現場における事例を通して、子どもと家庭のさまざまな問題を理解する。	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 講義 事例検討 グループ討議 (ICTを活用して調べる)	ICTを活用して調べた知識や、実習経験を思い出しながら、グループ討議に積極的に参加することができる。	(予習) グループ発表のための資料を用意する。配布された資料を NotebookLMに取り込み、事前学修を行い予習質疑に備える。	180	実行力 創造力 規律性
12	グループ発表を聞き、子どもと家庭のさまざまな問題に対する支援や予防について検討する。	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 グループ発表(わかりやすく聞き手に理解してもらうことを意識した発表)	グループ発表で、聞き手にわかりやすくまとめ、発表することができる。	(予習) 配布された資料をNotebookLMに取り込み、事前学修を行い予習質疑に備える。 (復習) グループ発表のプリントを読み、理解を深める。	180	発信力 傾聴力 規律性
13	生涯発達の視点からライフコースにおける、仕事と子育てについて学ぶ。	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 ICTを活用して調べ、レポートする。	ライフコースにおける仕事と子育ての関わりをICTを活用して調べた内容も含めて理解し、レポートにまとめることができる。	(予習) 配布された資料をNotebookLMに取り込み、事前学修を行い予習質疑に備える。 (復習) レポートを書き始める。	180	主体性 課題発見力
14	多様な家庭があることを理解すると共に、特別な配慮を要する家庭への対応を学ぶ。	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 講義	多様な家庭があることを理解し、説明できる。	(予習) 虐待について、配布された資料をNotebookLMに取り込み、事前学修を行い予習質疑に備える。 (復習) 多様な家庭があることを理解し、保育士として可能な物理的、心理的な支援を考え、まとめる。	180	課題発見力
15	子どもの発達や子どもを取り巻く環境について学んだことを統合し、保育の専門家として、さらに個人として豊かな人生が送れるように、生きることについて考える。	前回の授業の質疑応答、コメントシートのフィードバック及び解説。 NotebookLMによる予習 質疑応答 講義 NotebookLMを使用し、テスト問題を作成する。	生涯発達について意識をもち、学んだことを日常生活にいかすことができる。	(予習) テキストやノートを見直し、理解を深める。 (復習) 試験に備え、ノートをまとめておく。	180	主体性 課題発見力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力